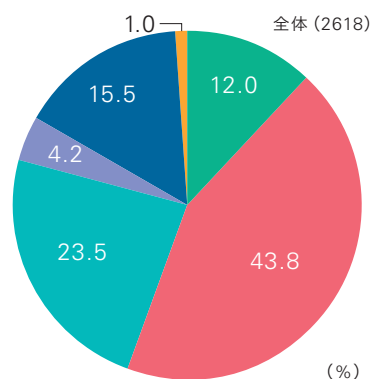


早稲田大学は、学生参画・ジョブセンター（SJC）を立ち上げ、学生に大学内の業務により多く参画してもらうよう、業務の創出をしています。大学内の業務に就業する機会があれば、応募したいと思いませんか？



合計すると、79.3%の学部学生が「応募したい」と回答しています。「学外のアルバイトを希望する」学生はごくわずかですので、業務内容や時給によっては、より多くの学生に学内業務に参画してもらえることが期待されます。

『早稲田大学校歌』を「歌える」と回答している割合の合計は64.9%、「歌詞を見ないとほとんど歌えない」「歌詞を見ても歌えない」の合計は35.2%でした。75.0%の学部学生は、文化系・スポーツ系のいずれかの大学行事に参加しています。早稲田大学には、年間を通して大学行事が充実しており、大学行事に参加すると校歌を歌う機会も多くなるので、皆さんぜひ積極的に参加してください。

2012年11月に策定したWaseda Vision 150ですが、一年半余りたっても学生の認知度が低いようです。

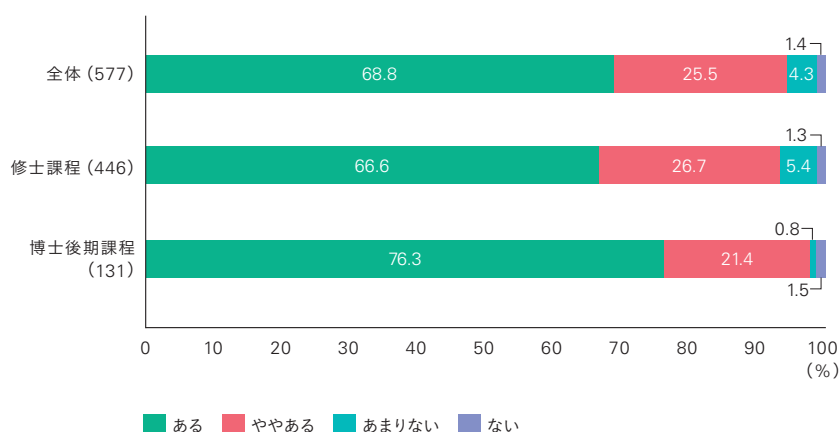
近年、学生スタッフが学内の各所業務に参画するようになりましたが、長い間早稲田大学は、大学の運営に学生の力を借りることが少なかったように思います。これからは学生も教職員と共に大学を構成する一員として、大学の教育・研究、さらに運営に積極的に参画できる仕組みを創設していきます。その中核を担うのが学生参画・ジョブセンターであり、将来的には学生スタッフが主体的に運営していくことを計画しています。80%近い学部学生が学内業務に「応募したい」と回答したことから、学生参画の増加が期待されます。

第5章 大学院学生について

本章では、大学院学生の授業への興味や研究指導方法への満足度、家計状況に関する調査結果をまとめました。

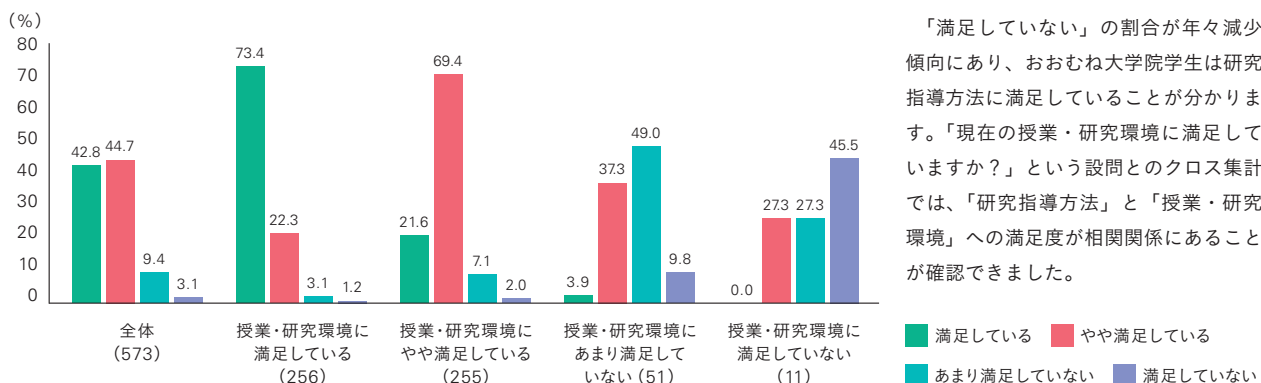
※大学院学生の集計結果です（専門職大学院の調査結果は含めずに集計しています）。

大学の授業に興味がありますか？



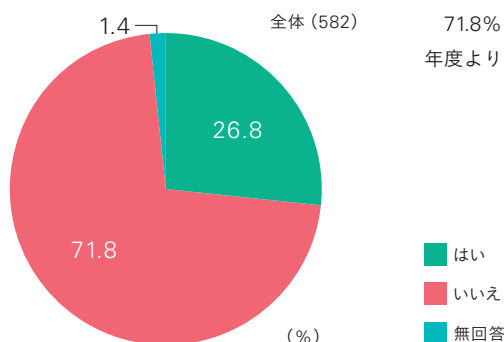
「ある」の回答の割合は、第1章の学部学生の結果では49.8%でしたが、大学院に進むと、修士課程は66.6%、博士後期課程は76.3%と高い割合になっています。専門の研究が進むにつれて授業への興味がさらに深まっているのは、大学院学生ならではの特徴といえます。

現在、あなたが受けている研究指導方法に満足していますか？



「満足していない」の割合が年々減少傾向にあり、おむね大学院学生は研究指導方法に満足していることが分かります。「現在の授業・研究環境に満足していますか？」という設問とのクロス集計では、「研究指導方法」と「授業・研究環境」への満足度が相関関係にあることが確認できました。

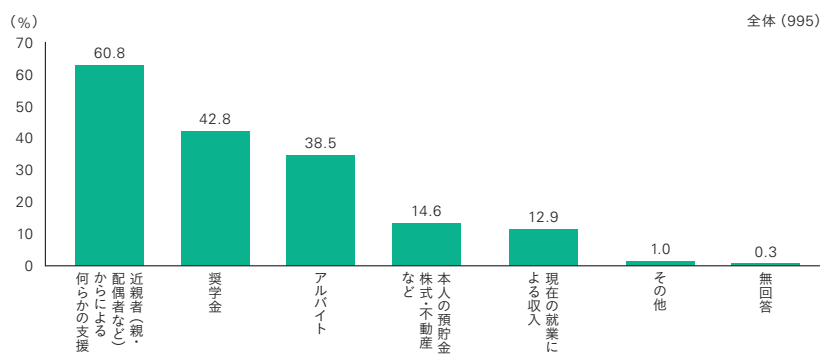
あなたは経済的に独立していますか？



71.8%の大学院学生が「経済的に独立していない」と回答しています。この割合は2013年度よりも6.7%減少しており、その分「経済的に独立している」という回答が増加しました。

現在の学費・生活費の収入源として該当するものは何ですか？

(主なものを2つまで選択)



過去5年間、「近親者からによる支援」に頼っているという回答は一貫して過半数を超えていますが、今年は2013年度と比較して12%も減少、過去5年間で最も低い割合になりました。また、「奨学金」の占める割合は過去5年間で最も高い割合となり、大学院学生の厳しい経済状況が分かります。

大学院学生の授業への関心は学部学生よりも一段と高く、また、研究指導方法への満足度と、授業・研究環境への満足度は相関関係にあることが分かりました。

大学院学生の家計状況を見ると、学費・生活費の収入源を「近親者からによる支援」に頼っているという回答は今年は過去5年間で最も低い割合となりました。「経済的に独立していない」の割合が2013年度より6.7%減少していることに鑑みると、大

学院学生の経済的な自立が進んでいることが分かります。

また、「奨学金」の占める割合が増加しており、大学院学生が奨学金を必要としている状況が浮かび上がります。

Waseda Vision 150では、「奨学金制度設計プロジェクト」として、学内の奨学金制度を見直し、経済的側面からグローバルリーダーの養成を支援します。また大学院学生にはTA・RAなどのスチューデント・ジョブへの参画も期待しています。